

<子宮頸がんを予防しましょう～HPV 検査について～>

子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルスの感染が原因です。しかし、感染しても発がんするまでに長い時間がかかります（初期の細胞の異形成からがんに進行するまでに、5～10年かかると言われています）。そのため定期的に検診を受けることが、異常の早期発見につながり、結果的に子宮頸がん予防につながります。

検査については、一度に採取した子宮頸部の細胞で、「細胞診」と「HPV検査」を同時に行うことができます。これら2つの検査を併用することによって、ほぼ100%の異常を発見できると言われてしています。

「細胞診」：子宮頸部の細胞を特殊なブラシで採取して、顕微鏡で調べます。
がん細胞になる前の異形成といわれる段階の細胞も発見できます。

「HPV検査」：上記の細胞を用いて子宮頸がんの原因ウイルスの有無を検査します。
子宮頸がんの原因HPVウイルスは、ハイリスクHPVのなかでも最もがんに移行しやすく、かつ進展速度が速いといわれている16、18型を中心に検出します（日本人に多いタイプです）。

※当オプションでは16・18型を含む18種類のハイリスクHPVと2種類のローリスク型HPVを検出します。

結果は16・18型が個別報告。その他ハイリスク型、ローリスク型は一括報告となります。（型別判定なし）

